# 令和7年度　大田区立馬込第二小学校　自己評価　報告書

〇　本校の概要　　　　令和8年1月30日

本校は、児童数490名（令和7年5月１日現在）、通常学級18学級、特別支援学級（若竹学級）3学級の中規模の小学校である。環状七号線の外側に少し入った閑静な住宅地の中に学校がある。保護者や地域の方々は学校に協力的であり、温かい雰囲気の中での支援に支えられて学校教育を推進することができている。今年度は、「保護者・地域と連携した教育活動」を引き続き学校教育の柱の一つとしながら、大田区独自教科「おおたの未来づくり」を校内研究に位置づけ、「児童の創造的な資質・能力」の育成に繋がる授業研究を全学年で実施する。また、コミュニティ・スクールに向けての準備と運営の推進、地域教材・地域人材の開発・活用（外部人材バンクの活用・充実）、教員の地域行事への積極的な参加等を実施する。また、学習の基礎・基本の習得や個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、タブレット端末一人一台の学習環境を効果的に生かすためのICT機器の活用、スキルの習得についても継続的に推進を図る。

〇　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 方向性 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| 個別目標１<br>予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します | 社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。 | ①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。<br>※新教科「おおたの未来づくり」に向けた校内研究等の授業実践、指導計画、素地を養うカリキュラムづくり等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.0 | 児童の自己評価において、「自分の考えを授業の中で伝えることができた」「学校行事の中で、友達と協力し、すすんで活動することができた」「授業でタブレットを上手に使うことができた」と答えた児童の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 3 | ➡本年度は「共に学び互いに高め合う児童の育成」をテーマに、新教科「おおたの未来づくり」の授業研究をしてきた。低学年は生活科、中学年は総合的な学習の時間の授業研究を行う中で、地域と連携したSTEAM教育等の教科等横断的な学びを推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を推進することができた。今年度の実践を次年度に確実に引き継ぐことが必要である。<br>➡各教員が学校行事に向けて児童一人一人の力を高められるよう、協力して取り組んでいる。学校行事のキャリアパスポートではめあてをもたせて取り組ませ、終わった後に振り返りをさせることにより、学校行事を有意義なものにする機会をつくっている。<br>➡ICTを活用した授業づくりに各教員が取り組んでいる。ドリルパークを活用し、学習の基礎基本の定着を図っている。オクリンクプラスなど、新しいコンテンツについては、教員で研修会を行い、使い方の確認、活用方法の検討を行っている。また、ICT支援員を活用し、ICT機器の使い方や効果的な活用方法などを教えてもらっている。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>3 | ・先生方のこどもに対しての目配り、気配り大変ですね。中にはついていけない子もいるかと。そのあたりで感じ取られることもそのような子も得意なことがきっとあるはず。でも褒めてあげて自信がつくように。褒めて育てる、とよく言われますよね。<br>・「こどもまつり」を拝見し、また体験させていただき、こどもたちの友達と協力してスムーズにゲームを進ませたり、その時々で役割を果たしたりして本当に素晴らしいと思いました。また、その際にタブレットをとても上手に使いこなしていて感心いたしました。<br>・熟議にあったようrに一長一短だと思っています。学校側で管理しやすい一方で保護者には状況が分かりにくかったり人によってまちまちだったりするので、大人こそ知る機会が必要だと思いました。家庭での活用法や注意点の工夫などが共有できる情報があれば発信をお願いします。<br>・まさに「予測困難な」ため、具体的に教育活動をどのように行っていくか難しいのは当然だろうとお察しします。馬二小の様子に敬意を表します。ICT機器の教育現場での用い方について、過去の教育機器を用いた授業で得られなかったものを振り返ってみることも必要ではないか。過去の機器は使い方に慣れるのみで終わったり単に機器を用いた授業というだけのものであったことなどは心しておかねばならないのではと思います。そのためにも学習目標の設定と実現のために必要な教育活動の探索がこれまで以上に重要になるという気がします。<br>・おおたの未来づくりでは前例が少ない中教員の皆様の負担になっていないかまた他教科のバランスを含め弊害になっていないか気になりました。ICTは積極的に促進している様子が分かりました。<br>・おおたの未来づくりは横断的な学習などより、いろいろな見方、考え方を引き出し協力して共通課題の解決に意欲的に取り組ませていると思います。<br>・特別活動「こどもまつり」は計画、作業、実施といきいきと取り組んでいたと思います。当日も親切に接し、喜ばれてさらに自信を深めていたと思います。 |
| | | ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。<br>※特別活動（学校行事）の充実<br>限られた時間の中で、前例踏襲でなく児童の力を高める有意義な機会の創出。めあての設定、ｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄを活用しての振り返り等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.3 | | | | | | | |
| | | ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。<br>※タブレ ット 端末等ICT を活用した授業実践、基礎・基本の習得（タブドリ等）、オクリンクプラス等のコンテンツの活用 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.3 | | | | | | | |
| 個別目標２<br>世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します | 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。 | ①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。<br>※外国語（活動）、英語カフェ、ALTの給食交流、外国語GTとの交流、道徳:国際理解 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.6 | 児童の自己評価において、「英語の学習に、楽しく有意義に取り組むことができた」「地域のことを学習する授業が好きだ」と答えた児童の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 3 | ➡外国語教育指導員と休み時間や給食の時間に交流する場を設けている。一緒にゲームをしたり、外国の文化について話したりしながら、英語を用いて会話する機会をつくっている。低学年が外国語教育指導員と給食を食べる際、話す内容に困ることがある。学級全体で席を一つの円にして全体で話すことや事前にトークテーマを決めておくことで楽しく会話が続くように支援する必要がある。<br>➡低学年の生活科、中学年の社会科、総合的な学習の時間を中心に地域への校外学習やゲストティーチャーによる出前授業を行った。人権週間、生命尊重週間などの機会に人権教育に関する授業を行い、ポスターや標語などを掲示する取り組みを行っている。<br>➡道徳、理科、社会、総合的な学習の時間などで、自然や環境、SDG’sなどの学習を行っている。調べ学習が中心となっていて、実際に行動することが難しいこともある。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>3 | ・早くから英語に取り掛かることはとても良い事です。外国語での交流（日本人英語の先生ではなく）で英語のニュアンスも肌で感じられます。<br>・授業以外でも英語に触れることができ素晴らしいと思います。<br>・馬二のこどもたちはとても元気でネイティブの先生に元気に挨拶する姿をよく見かけます。また、生活科においては虫探しに同行しましたが生き生きと虫や植物触れあっていて、得意な子がやさしく教えているのが印象的でした。<br>・実際の様子を見ていませんが、こどもたちの話によると英語を習っている子だけが授業内容が分かっているなど二極化しているようで英語に関しては心配しています。日本人の先生が入ることでネイティブの先生の話をこどもたちが聞かなくなりイライラしている様子がこどもたちにも伝わっているようです。歌などは家に遊びに来たこどもたちがhellosongを口ずさんでいるので好きなようです。英会話や外国文化に「触れる」という内容であれば良いと思います。<br>・従来の教科との違い「行動する力」は課題やゴールを見出しにくいと思われました。ある程度テンプレート的なものがあれば教員の回答も上がるのではないとと思いました。<br>・英語を用いた会話の機会をつくる工夫がされています。こどものうちは記憶がよいので適正な会話の多い映像などを見たり紹介したりして慣れ親しむ機会を多くしたら良いと思います。 |
| | | ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。<br>※地域教材・地域人材 の 開発・活用<br>地域理解と地域への愛着（校内研究含）<br>道徳:伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度、相互理解 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.3 | | | | | | | |
| | | ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。<br>※道徳:自然愛護、生活科:自然・地域、総合的な学習の時間:SDG’s等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.0 | | | | | | | |
| 個別目標３<br>一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します | 児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。 | ①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。<br>※道徳学習の充実<br>他者理解や思いやりの心の育成<br>（学年・学級指導含） | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.4 | 児童の自己評価において、「授業の内容を理解することができた」「友達にやさしくし、相手のことも考えて接することができた」「運動をしたり、体を動かしたりすることが好きだ」と答えた児童の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 4 | ➡道徳科では、教科書の内容に従って授業を行っている。ふれあい月間では、各学級いじめ防止について話をしている。必要に応じて、学年朝会や朝の会などで指導している。<br>➡算数科では、全学年で少人数学習を行っている。特に、3年生以上では、全単元で習熟度別少人数学習を行うとともに、週一回程度の放課後算数補習教室を実施している。大田区学習効果測定では、どの学年、どの教科も概ね平均となっているが、個人差が大きいことが課題となっている。<br>➡年2回「いきいき貯金」の取り組みを実施し、生活の記録を付けることで基本的な生活習慣の確立を図っている。<br>➡9月と1月の発育測定時には発達段階に合わせた保健指導を実施している。また、包括的性教育の指導を全校児童に行っている。<br>➡年度当初に作成した計画を基に進めている。小中一貫教育の会では、各教科で授業の感想や、各教科の課題や目標に対する取り組み状況について、意見交換をした。保育園・幼稚園との交流活動に関しては、3学期に行った。 | A<br>B<br>C<br>D | 6<br>1<br>1 | ・今の社会では道徳が不足気味なので、大切に学習してほしいです。<br>・個人差は受験をするかしないかでもだいぶ違うので致し方ない部分ではあります。学校の授業だけでは反復が必要な読み書き計算を補えないので家庭学習は必須だと思います。しかしこれを「宿題」としてしまうと学習効果として薄いので大田区の漢字検定のように個々に「ここまでできた！」と実感できる目標があるといいなと思います。<br>・日本社会での言語能力の低下を痛切に感じさせられる事しばしばです。情緒などの表現、伝達ももちろん重要なのですが、正確な事実の伝達や記録などの言語能力にも目を向けて指導していただければと思います。<br>・算数の少人数や「いきいき貯金」など成功していると思われる取り組みは継続して実施していただきたいと思います。またいじめに関する授業についても良いと思いました。<br>・一人ひとりの基礎学力の育成を図っていて良いです。その力が後々にこどもたちの発展的な活躍のもとになる重要な取り組みだと思います。 |
| | | ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。<br>※各教科の指導、算数少人数学習、補習等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.3 | | | | | | | |
| | | ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。<br>※体育、保健学習、馬二タイム、「いきいき貯金」の取組み等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.4 | | | | | | | |
| | | ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。<br>※小中一貫授業公開、中学校教員出前授業、部活動体験、保育園・幼稚園との交流活動等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.3 | | | | | | | |
| 個別目標４<br>学校力・教師力を向上させます | 校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。 | ①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。<br>※ペア・グループ学習を取り入れた協働的な学び、タブレット端末を活用した個別最適な学び等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.2 | 保護者のアンケートにおいて、「児童が進んで学習に取り組むための手立てや環境を整え、工夫・改善を図っている」と答えた保護者の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 4 | ➡ペア・グループ学習を取り入れた協働的な学び、タブレット端末を活用した個別最適な学び等を研究授業などを通して周知し、各学年の発達段階に応じて適切に実施した。児童が共同で作業する場合、不用意な操作で動いたり、消えてしまったりすることがある。また、調べ学習では、すぐに検索して回答を得ようとするだけではなく、内容を確かめたり、深く考えたりすることを指導していく必要がある。<br>➡全教職員が自己研究テーマを設定して、日々の勤務の中で自己研鑽に努めている。お互いの実践について情報共有をし、指導・助言をし合う機会を年間7回設定している。また、主幹教諭、主任教諭による公開授業を実施し、協議することで一人一人の資質向上へと繋げた。教員同士で授業を見合い、学び合う機会を増やしていく。<br>➡職員会議を精選し、放課後に学年会や教材研究の時間を確保することができている。週3回の職員夕会とICT活用で、連絡事項を共有している。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>3 | ・校内においては皆分かっているが、外に出るとまた、違う一面が出ることもある。少数ですが、小競り合いを見ることがある。<br>・個人差については難しいと思うが、丹念に目を向け少しの成長を促すように見てあげてください。<br>・小、中の教育界は良い交流ですね。さらに、保育園、幼稚園との交流も新一年生になるこの情報もわかることができるので。<br>・いろいろな児童が居て担任の先生のメンタルが心配ではありますが、情報を共有されていて、他の先生方も対応できる環境でいることはとてもすばらしいと思います。<br>・一人ひとりにしっかりと役割を与えて、こどもたち一人ひとりに達成感を感じさせる央に先生方が大変尽力されているように思いました。こどもたちそれぞれの個性を引き出せるよう、先生たちのがんばりが見えました。<br>・今のこどもたちは自分たちで答えを見つけ出すことに長けていると思います。自由な言動を協働に持っていくことはとても指導技術のいるところだと思うので、日頃の先生方のご苦労と努力によるものだと感じます。<br>・こどもたちに向き合い教師も一人の人間であり心身ともに充実していないとそもそも何もできないと思うため何を するかも大事ですが、何を捨てるかも議論してもらいたいと思います。<br>・教員の研究研鑽が積まれていることにより一人ひとりのこどもが活発にICT機器を扱いまた協同して活用するこどもの育成にもよい成果を上げています。 |
| | | ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。<br>※区教研等での学びや授業への活用、OJT実践、地域連携等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.2 | | | | | | | |
| | | ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。<br>※行事や会議の精選、個々のワークライフバランスの推進、「働きやすさ」＋「働きがい」 | 4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。<br>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.0 | | | | | | | |
| 個別目標５<br>自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します | 困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。 | ①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。<br>※校内委員会の継続的な実施と充実、若竹学級や異学年等との交流学習、教育支援ソフトの活用 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.2 | 保護者のアンケートにおいて、「児童の悩みや保護者の相談に対して、適切に対応する環境を整えている」と答えた保護者の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 4 | ➡月一回程度の定例校内委員会や臨時の校内委員会において、特別に配慮が必要な児童の実態や特性を明確にし、適切な支援方法や支援体制を話し合い実践している。<br>通常級と特別支援学級（若竹学級）は通常の授業の交流だけではなく、ゲストティーチャーを招いた学習や運動会などの大きな行事などで同学年交流している。<br>また「なかよし班活動」として月一回程度昼休みの時間に異学年で遊ぶなどの交流もしている。<br>➡いじめに関するアンケート（全学年、年3回）、WebQU（3年生以上、年2回）を実施し、いじめの早期発見を図っている。児童から訴えがあった件については、聞き取り調査を行い、早期解決に努めている。<br>各学級において、いじめ事案があった時には、「情報共有シート」に入力し、校内で情報を共有している。また、毎週金曜日に生活指導夕会を実施し、児童についての情報を共有している。また、特に重大な案件については、ただちにいじめ対策委員会を実施し、学校全体の問題として考えて対応を検討し、早急に解決を図っている。<br>□<br>➡毎月の校内委員会では、検討事項や対象児童についてもSCと共有している。また、困難なケースについてはSSWなどと連携し、早期対応を心がけている。3名の特別支援教育コーディネーターが校内委員会充実のため、児童の行動観察や担任との | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>3 | ・他校の支援学級に通う友人が「馬二小の支援学級にすればよかった」と言っておりました。若竹学級の保護者からも先生方がとても良いと聞いております。いじめ対応においては何かこどもが問題を訴えた時は担任は小さなことでも必ず話を聞いてくださるので信頼しています。SCの相談先や案内を知らされているので安心感があります。<br>・先生方が定例会で議論され、対応できていると思います。またいじめについてもさまざまな調査をして、早期発見に対処されていると思います。<br>・いじめ防止、配慮を要する児童の支援など校内組織体制がしっかりできています。現状の社会生活の背景の課題によってこれからの問題は常に生じうると思われますので日頃より組織的に配慮をしていってください。 |
| | | ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。<br>※いじめアンケート、WEBQUの実施・活用、いじめ認知件数等の継続的な記録含 | 4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満の教員が回答した。<br>2:60%以上80%未満の教員が回答した。<br>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.4 | | | | | | | |
| | | ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。<br>※SCとの日々の連携、保護者の相談、SCの紹介（児童・保護者）、校内委員会の活用等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.5 | | | | | | | |
| 個別目標６<br>柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります | 学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。 | ①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。<br>※ICT環境整備（タブレット等のICT機器をより使いやすくする学習環境整備）<br>地域教材・地域人材（外部人材バンク）の開拓と整備 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.4 | 保護者のアンケートにおいて、「学校は児童が安心・安全に学習するための安全指導や環境づくりを行っている」と答えた保護者の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 4 | ➡オクリンクプラスなどのアプリケーションやプリンター増設など、ICT環境が充実してきた。生活科や総合的な学習の時間、おおたの未来づくりの学習の中で、地域と連携して学習を進めた。また、教職員の地域行事への参加によって、地域との結びつきが強くなった。これらの関わりを地域人材一覧表に記録しながら学校の資産にしている。<br>➡毎月１回、避難訓練を実施実施している（年11回）。内容は、地震や火災、不審者対応訓練（馬込警察署・防犯課）や起震車・煙ハウス（大田区防災課）など。<br>また、毎月１回の校内安全点検を実施しているとともに、3年生の自転車安全運転講習（交通安全指導員）、2・5年の交通安全教室、1・2年の生消防写生会・3年生の消防署見学、馬込東中学校の小中連携型の避難訓練（二次避難）を実施している。 | A<br>B<br>C<br>D | 6<br>2 | ・こどもの顔（大人も）は、3つ4つありその場での対応がある。校内では普通の顔、校外に出れば違う生活など、いたずらか悪ふざけか2，3件位見たが、声を掛けても知らん顔。<br>・町会関係の防災訓練（への参加）とても素晴らしく思っています。私達も（学校での取組をみて）反省です。出張所の方も大変ですね。以前の訓練の資料をお渡ししましたが、（先生方、出張所の方）転勤があり仕方がないのですね。経験がないのに担当になってかわいそうです。<br>・馬二小の避難訓練では定期的に馬込東中の方に全校児童で行き、本格的に災害に備えて取り組んでいるようで、続けてほしいと思います。<br>・地震が起きた時机の下にすぐ隠れるのを見ると学校での訓練の効果を感じます。また親の方でも地域の取り組みを知ることで、こどもの意欲を引き出すことになります。総合的な学習の時間に、どんな学習をしているのかこどもらから聞くにしたいと思います。<br>・ICT機器を稼司適正に活用できるよう環境づくりをされ、学習効果を上げています。<br>・保護者、地域の方々にもICT危機に慣れ活用している方も多いと思われますので、こどもの教育で連携するのも良いかと思います。 |
| | | ③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。<br>※定期的な避難訓練や安全点検の実施<br>交通安全指導員や消防署、中学校との連携<br>地域防災活動との連携 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.5 | | | | | | | |
| 個別目標７<br>学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります | 地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。 | ①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。<br>※地域連携:地域教材・地域人材の活用、教員のPTA・地域行事への参加、地域防災活動との連携 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.5 | 保護者のアンケートにおいて、「学校は、地域や保護者の協力を得ながら児童の教育活動に活かしている」と答えた保護者の割合 | 4: 90%以上<br>3: 80%以上<br>2: 70%以上<br>1: 60%以上 | 4 | ➡地域人材の活用、教員のPTA・地域行事への参加を全職員が2～3回程度参加して積極的に地域との交流を行った。□<br>➡本年度は、地域を活用した学習や、教職員の地域行事への参加の他に、地域連絡協議会への参加も行ってきた。中学年では、地域の防災訓練への参加と学習への活用も行った。<br>➡月に1日安全指導日を設け、安全についての指導を行っている。<br>長期休業期間の前には、全児童に対して、生活指導担当教員から重点項目を指導している。<br>春・秋の交通安全週間には、町会を中心とする地域の方が交通安全の見守りを行っている。<br>毎年、全教員が参加し、通学路の危険個所の点検を行い、警察署等の関連機関と情報を共有し、改善策について検討を行っている。<br>地区防災訓練に教員が参加し、地域の方と共に、消火や救命救急等についての訓練を行っている。<br>➡体育・健康教育授業地区公開講座、道徳授業地区公開講座では、講師による講演会を実施し、2月の学校公開日に合わせて情報モラル講習会（保護者向け）を行った。参加人数の増加が課題であり、学校側からも呼びかけていくとともにPTA役員などと協力していく。□ | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>3 | ・こどもたちは学校が終わると2，3人で自転車で遊びにでかけるが（自転車の走行が）危険なので、こちらは気を付けて歩行している。細心の注意がいる。<br>・昔とは働き方や考え方が違うので、PTAや地域協力を搾取と考える向きが強まりつつあるのを感じます。PTAが任意団体で入退会自由であると謳う必要性が出てきたので今後の活動に難しさを感じます。区や学校が地域人材の活用に動いてくださることに非常にありがたく思います。<br>・忙しすぎる先生方の様子を拝見していますので申し上げにくいのですが、地域の行事に足を向けていただき顔をつないでいただけるとありがたく存じます。盆踊りや祭礼など参加のこどもたちの様子をみて、できたら一緒に地域の人間と話をする機会を持っていただければ幸いです。<br>・PTAとの関わり合いは本音ベースでこれからも議論できればと思います。<br>・道徳、保健、特活での公開講座は保護者が知識を得て新しい取り組みへの啓発になっていくと思います。<br>・教員の地域行事への参加などは地域を深く知り、連携を深めることになります。その中で人材発掘など地域力の発見につながると思います。 |
| | | ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。<br>※日々の安全指導、春・秋の交通安全週間による地域見守りの実施、PTA地域パトロールの実施、地域防災活動の実施 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.4 | | | | | | | |
| | | ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。<br>※保護者会資料による啓発、体育・健康教育授業地区公開講座講演会、道徳授業地区公開講座講演会、セーフティ教室の実施等 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3.3 | | | | | | | |

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。